

おお つぼ い せき
大 坪 遺 跡

— 国道140号緊急道路整備改築事業に伴う発掘調査 —

大
坪
遺
跡

二〇一五・三

山
梨
県
埋
藏
文
化
財
中
心

2015.3

山梨県教育委員会
山梨県国土整備部

おお つぼ い せき

大坪遺跡

—国道140号緊急道路整備改築事業に伴う発掘調査—

2015. 3

山梨県教育委員会

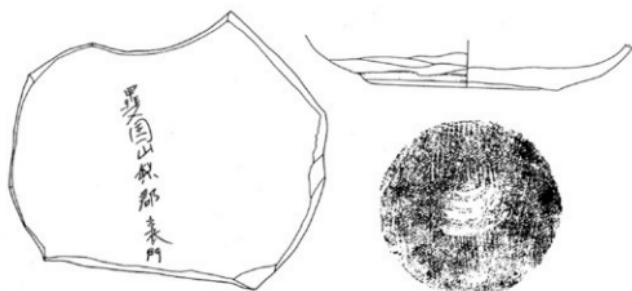
山梨県県土整備部

大坪遺跡調査報告書のあらまし

大坪遺跡は甲府市桜井町を中心に大規模に展開する奈良・平安時代の遺跡です。

今回の調査地点はその大坪遺跡北東部の縁辺部にあたる場所で、国道140号緊急道路整備修繕事業に伴いおおよそ、200mの狭い範囲を発掘調査しました。ここは、甲府盆地北側の山塊から流れ出てくる十郎川などが作った扇状地上の標高約260m地点にあることなどからこの地域は粘土質の土壤が豊富にあり、戦前から近年まで屋根瓦の生産が盛んな場所でした。また、古代においても白鳳時代から奈良時代にかけて寺本廃寺や国分寺・国分尼寺への供給が行われた川田瓦窯跡が東側に隣接して存在しています。

遺跡の周辺では、北側に積石塚で有名な横根・桜井古墳群、東側には川田瓦窯跡と桜井畠遺跡、西側には奈良時代の小金銅仏が出土した東畠遺跡など古代から平安時代の遺跡がみられます。



十郎川河床より出土した刻書土器

序 文

本書は、2014（平成 26）年度に甲府市桜井町地内で計画されている国道 140 号線（青梅街道）の十郎橋西交差点改良工事に先立って実施した、大坪遺跡の発掘調査報告書であります。

大坪遺跡は、甲府市の東部に位置する桜井町と横根町に広がる奈良・平安時代の大遺跡であります。この遺跡は、昭和 50 年 3 月に国道 140 号線改良工事に伴い発見されまして、同年 5 月に中央本線を挟んだ南北 2 力所におきまして、山梨県遺跡調査団によって初めて本格的な発掘調査が行われ、昭和 51 年 3 月に発掘調査報告書『大坪』が刊行されました。

昭和 57 年 11 月～12 月に十郎川河川改修工事に伴い、甲府市教育委員会によって発掘調査が実施されました。この調査によって多くの土師器が出土しましたが、中でも「甲斐国山梨郡表門」と鎧状の工具によって内面底部に刻書された甲斐型壺が発見されました。この刻書は、「かいこく・やまなしごおり・うわと」と読み、平安時代の甲斐国山梨郡に所在した「表門」の郷名を表記したものであります。ほぼ同時期に発見された韮崎市中田町の西町遺跡出土の「葛井」（ふじい）と書かれた墨書き土器、旧一宮町松原遺跡出土「石和東」等とともに、古代郷配置の研究に大きな影響を与えました。

その後大坪遺跡は、1994 年に社会福祉法人の施設建設に伴い、また 2000 年にも社会福祉法人の施設建設に伴いまして、それぞれ十郎橋西交差点の南東側が、甲府市教育委員会によって発掘調査されて、発掘調査報告書『大坪遺跡』として多大な成果が報告されております。

本調査は、交通量の多い交差点に隣接するごく限られた面積でありますため、現場では安全対策や排土の切り回し等、困難を極めた調査となりました。

このような状況下でも無事に調査が終了できましたことは、関係機関各位のご協力と発掘調査作業に従事された方々の御労苦によるものと、心から感謝申し上げます。

最後に、この調査報告書が、山梨の古代史研究の一助となれば幸いに存じます。

2015 年 3 月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 八巻與志夫

例　　言

- 1 本書は山梨県甲府市桜井町 634－3 に所在する大坪遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本書は県土整備部の依頼を受けて山梨県教育委員会が実施した国道 140 号緊急道路整備改築事業に伴う発掘調査である。
- 3 発掘調査及び整理作業刊行は山梨県埋蔵文化財センターが実施した。
- 4 本書の執筆は第 2 章第 1 節を浅川一郎が、その他を吉岡弘樹が執筆した。
- 5 発掘調査に際して基準点測量を昭和測量株式会社を委託した。
- 6 本書にかかる出土品および図面、写真は山梨県埋蔵文化財センターが保管する。
- 7 本書をまとめるにあたり甲府市教育委員会志村憲一氏よりご指導いただいた。記して感謝するしたいである。

凡　　例

- 1 遺構の層序等は現地調査での番号を踏襲した。
- 2 全体図は 1/200 を基準とし遺構実測図は 1/60・1/40・1/30、遺物実測図は 2/3・1/3 の縮尺とし各スケールを付した。
- 3 遺構観察表および遺物観察表中において（　）内の数値は残存値・推定値を表す。
- 4 遺物図版では須恵器は断面を黒塗り、灰釉陶器は断面を網点、内面黒色土器は黒色処理面を黒塗りとした。

目 次

あらまし

序文

例言・凡例

目次

第1章 調査の経緯と経過.....	1
第1節 発掘調査に至る経緯と経過.....	1
第2節 調査の組織.....	1
第2章 遺跡周辺の環境.....	2
第1節 地理的環境.....	2
第2節 歴史的環境.....	4
第3章 発掘調査の方法および基本層序と概要.....	5
第1節 発掘調査の方法.....	5
第2節 基本層序.....	6
第3節 調査の概要.....	6
第4章 発見された遺構と遺物.....	7
第5章 調査の成果と課題.....	9

写真図版

挿図目次

第1図 遺構全体図.....	10
第2図 第1～第3号住居跡 平・断面図.....	11
第3図 第4号住居跡・第2号溝状遺構・第2号土坑 平・断面図.....	12

第4図 第1号溝状遺構・第1号暗渠・第1号土坑 平・断面図	13
第5図 出土遺物1	14
第6図 出土遺物2	15
第7図 出土遺物3	16

表 目 次

第1表 出土遺物観察表1	17
--------------	----

写真図版目次

図版1	5
図版2	6
図版3	22
図版4	23
図版5	24

第1章 調査の経緯と経過

第1節 発掘調査に至る経緯と経過

国道 140 号緊急道路整備改築事業に伴った十郎橋西交差点改良工事が実施されることになった。平成 25 年 8 月 5 日から 9 日に当地を試掘調査したところ遺構・遺物の検出があり本格的調査が平成 26 年度になされたこととなった。このため、県土整備部の依頼を受けて、山梨県教育委員会により約 200m² の発掘調査が計画された。当調査地は交差点の北西に面しておりその西側を甲府市教育委員会が同時期に調査にあたっている。発掘調査は平成 26 年 7 月 7 日から 8 月 8 日までの 1 ヶ月間、整理作業は平成 26 年 12 月から 3 月まで 4 ヶ月間に渡り実施した。

なお、文化財保護法に基づく手続きは以下のとおりである。

- 平成 26 年 7 月 4 日 文化財保護法第 99 条第 2 項に基づく発掘通知を山梨県教育委員会教育長に提出
- 平成 26 年 8 月 15 日 文化財保護法第 100 条第 2 項に基づく発見通知を山梨県教育委員会教育長に提出
- 平成 26 年 8 月 21 日 終了報告を山梨県教育委員会教育長に提出
- 平成 27 年 3 月 20 日 発掘調査・整理作業の実績報告書を山梨県教育委員会教育長に提出

第2節 調査の組織

調査主体 山梨県教育委員会

調査機関 山梨県埋蔵文化財センター

所長 八巻與志夫

次長 出月洋文

調査研究課長 保坂康夫

調査第三担当 吉岡弘樹 浅川一郎

発掘調査埋蔵文化財臨時職員

内藤敏夫 望月孝次 北野礼子 水上喜正 中澤保 三神正士

整理作業短期間非常勤嘱託職員

平川涼子

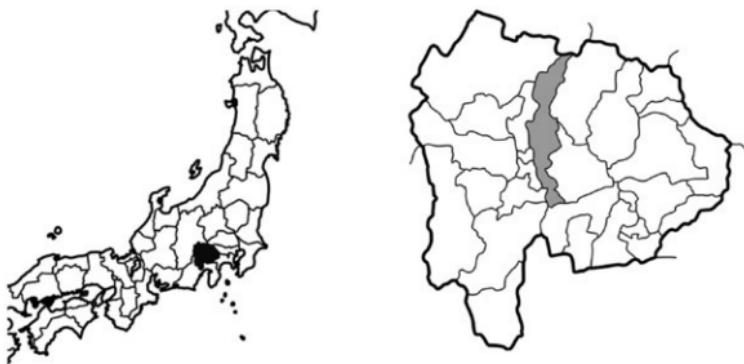
第2章 遺跡周辺の環境

第1節 地理的環境

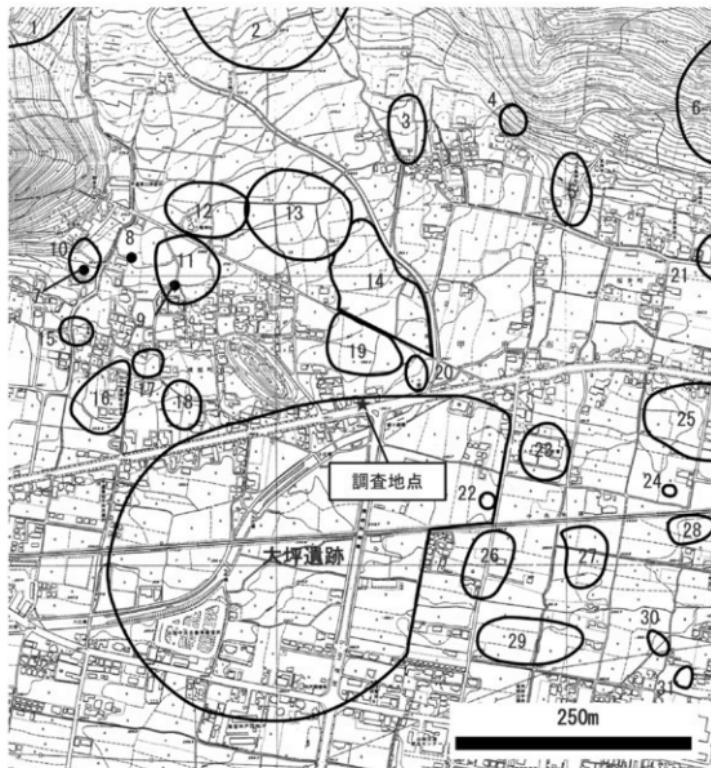
大坪遺跡は山梨県甲府市横根町・甲府市桜井町に位置する。北は県道6号線一国道140号線（青梅街道）周辺から南は国道411号線（甲州街道）周辺に至る範囲で、標高は260m前後である。地形的には甲府盆地北縁に位置し、北には安山岩質の火山岩類からなる秩父山地が迫っている。遺跡の北に位置する八人山（572m）と大藏経寺山（715.6m）との間を南流する十郎川（上流は大山沢川）の周囲には沖積錐～土石流扇状地が形成されている。遺跡地のほとんどは笛吹川の扇状地に立地するが、北辺部は土石流扇状地の末端にあたる。

発掘調査の対象となる地点は、山梨県甲府市桜井町634-3番地他で十郎川西交差点北西隅に位置し、大坪遺跡北東部にあたる。地形的には笛吹川扇状地と十郎川土石流扇状地の境界付近であり、現地表面の標高は約261.5mである。

当地では、現代の盛り土を除くと遺構確認面が浅い。残存する遺構の掘り込みも少なく、遺構上部は耕作等で擾乱されている。当地の北に隣接する久保田遺跡や道々芽木遺跡でも遺構確認面が浅く、異なる時代の遺構・遺物が同水準から検出されている。以上から当地点では、少なくとも歴史時代以降は砂礫の堆積がほとんどない環境であったことが推察できる。増水時に浸水した可能性は高いが、氾濫の縁辺部で砂礫の供給はほとんどなかつたと思われる。このように、調査地点周辺は長期間にわたり比較的安定した環境にあり、このことが後述する歴史的な発展をもたらした一因であると考えられる。



第1図 遺跡の位置



- | | | |
|----------------|------------|------------|
| 1. 横根積石塚古墳群西支群 | 13. 東畠遺跡 | 25. 上土器遺跡 |
| 2. 横根積石塚古墳群東支群 | 14. 道々芽木遺跡 | 26. 見餅遺跡 |
| 3. 中屋敷遺跡 | 15. 村内西遺跡 | 27. 横田遺跡 |
| 4. 清水遺跡 | 16. 矢下大畠遺跡 | 28. 起田遺跡 |
| 5. 中組遺跡 | 17. 村内南A遺跡 | 29. 長沢遺跡 |
| 6. 桜井積石塚古墳群西支群 | 18. 村内南B遺跡 | 30. 八枚田A遺跡 |
| 7. 横根山田古墳 | 19. 船山遺跡 | 31. 八枚田B遺跡 |
| 8. 村内1号噴 | 20. 久保田遺跡 | |
| 9. 村内2号噴 | 21. 新畠遺跡 | |
| 10. 山田光福寺遺跡 | 22. 十八田遺跡 | |
| 11. 村内遺跡 | 23. 梅之木遺跡 | |
| 12. 八木沢遺跡 | 24. 石川遺跡 | |

第2図 大坪遺跡の位置と周辺の遺跡

第2節 歴史的環境

縄文時代の遺跡は八人山から大歳経寺山に僅かに分布している（地蔵堂遺跡・桜井畠遺跡・畦作遺跡・松木塚の越遺跡等）。弥生時代においても縄文時代の遺跡と同様で分布状況は薄いが上土器遺跡・桜井畠遺跡等から後期の土器が出土しており周辺部に集落等の存在を伺わせている。

古墳時代になると、当地域の遺跡の数が著しい増加をみせる。古墳では横根・桜井積石塚古墳群をはじめとし、琵琶塚古墳・太神さん古墳などの存在が知られている。他方、集落遺跡としては住居跡とともに方形周溝墓が発見された桜井畠遺跡・竪穴式住居跡が検出された神東遺跡や上土器遺跡等があげられる。

古墳時代の時期的位置付けについては全国的に3世紀中葉から8世紀初頭とされている。甲斐国においては4中墳から5世紀の前期には甲府市の中曾根丘陵に国指定史跡跳子塚古墳や丸山塚古墳、大丸山古墳などが展開する。6世紀以降になると勢力の拡散が起きたため古墳の分布が盆地内にみられるようになる。笛吹市御坂町から同一宮町周辺、甲府市横根・桜井地区から笛吹市春日居町に至る地域などが挙げられる。特に後者の横根・桜井地区においては積石塚古墳が多く分布しており総数は160基ともいわれ、長野県千曲市の大室古墳群に次ぐ全国第2位の規模となっている。県内の他所でもみられるように古墳の造られた地域の多くは果樹経営が盛んに行われて多くの古墳が削平・消滅してしまっているのが現状である。

古墳の消滅する7世紀末葉には、当遺跡と近接した位置にある笛吹市春日居町に寺本庵寺が建造され、春日居地域に権力を有するような大勢力があったことが裏付けられよう。この地域の勢力は奈良・平安時代になつても継ぎ笛吹市春日居町国府・同一宮町国衙・同東原とともに甲斐国府が置かれた候補地の一つにあげられている。

奈良時代になると国・譁・里制が確立され、甲斐国にも山梨郡・八代郡・巨摩郡・都留郡の4郡が設置され、大坪遺跡は山梨郡に属していたと推測される。当遺跡からは昭和57年度調査では「甲斐国山梨郡表門」と刻書された土器が出土し当地が『和名類聚抄』に掲載されている山梨郡表門郷の範疇に入るということが確認されている。また、本遺跡に近接する東畠遺跡では竪穴式住居跡より白鳳期の小金銅仏が出土し、桜井畠遺跡A地区からも「寺」と墨書きされた土器片が出土していることなどから遺跡地の近郊に寺院が建立されていた可能性を想定されている。さらに7世紀末に寺本庵寺に瓦を供給していた川田瓦窯跡がある。8世紀になると川田瓦窯跡とともに甲斐国分寺に瓦を供給していた上土器遺跡もあり大坪遺跡周辺は甲斐国府と関係の強い地域であったことがうかがわれる。

第3章 発掘調査の方法および基本層序と概要

第1節 発掘調査の方法

調査区全体を覆うように1辺が5mの正方形のグリッドを設定し北から南にA、B、C・・・とアルファベット順に割り振り、西から東に1、2、3・・・と算用数字を割り当てていった。

調査は試掘の成果に基づいて遺構検出面直上まで平爪バケットを装着した重機による表土除去を行い、その後は鏝巻などを使用し遺構検出に努めた。

遺構の調査は土層セクション図、エレベーション図、遺構平面図、遺構内レベリング等を行い、遺物については直径5cm以上のものについては位置データを計測した。測量法は遺り方測量で、グリッド杭に水糸を張り測量基準線とした。



写真図版1 測量杭設置状況

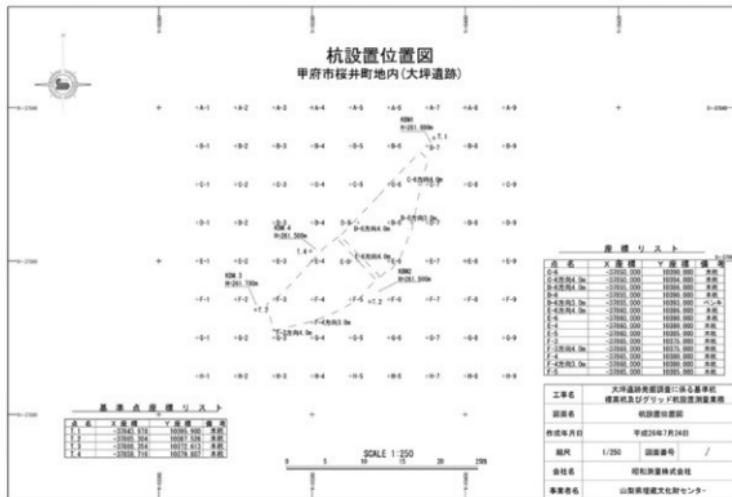


第3図 測量箇所位置図

なお、4カ所に基準杭を設置した（第4図）。

T-1	X座標	-37843.978
	Y座標	10395.900
T-2	X座標	-37865.304
	Y座標	10387.526
T-3	X座標	-37866.354
	Y座標	10372.623
T-4	X座標	-37858.716
	Y座標	10379.607

また、ベンチマークは第4図のとおりである。



第4図 杭設置箇所位置図

第2節 基本層序

当遺跡は狭い範囲の調査であるため基本層序は土層の安定したF-3区の調査区壁面にて土層観察を実施した。

約20cmの表土層の下に10~20cmの暗黒褐色土層がある。この層は擾乱もやや見られることから表土層に準じる層と捉えられるものである。続いてその下層には暗茶褐色土層（第3層）、淡茶褐色土層（第4層）とが約10~25cmの厚みを持って堆積している。さらにその下層には60cmの厚みを有する安定した遺物包含層の（明茶褐色土層・第6層）が観察できる。その下方には橙褐色土層が堆積していた。



写真図版2 基本層序観察状況

第3節 調査の概要

当地点は、平安期と類推する竪穴式住居跡が4軒、溝状遺構2条、土坑2基のほかに戦後の果樹経営の痕跡として棚を高架させるために杭を挿入したと類推されるピットと水捌けを良好に保つための暗渠が検出されている。

第4章 発見された遺構と遺物

今回の調査では竪穴式住居4軒、溝状遺構2条、土坑2基のほかに近代の果樹経営の痕跡である暗渠や棚を高架させるための柱痕（ピット）が検出された。ここでは、それについて説明する。

（1）竪穴式住居跡

第1号住居跡

D-5・6区に跨がって隅丸部分のみが検出された。深度は浅く主軸方向・竈の有無は不明である。なお、一部をピットに切られている。出土遺物は甲斐型杯及び蓋が出土している。これらは摩耗が著しいが口縁部の状況などから甲斐型編年IX・X期に比定されるものであろう。

第2・3号住居跡

D-6区の調査区外に伸びるように検出された。切合い関係は不明である。第2号住居跡の主軸方位はN-9°-Eに取る。第3号住居跡についての主軸方向は不明である。双方ともに深度は約10cmと浅い。規模は第2号住居跡では長軸2.5mを測る。遺物は双方の住居跡から時期を特定するには難しいほど細片化した平安期の杯が出土しており、いわゆる内黒の検出もみられた。

第4号住居跡

当住居跡はG-3・4区より検出されたもので第2号溝状遺構を切る形で一部分のみが検出された。主軸方向、規模などは不明である。なお、深度は概ね10cmを測る。出土遺物は平安後期の杯片が極少量出土している。

（2）溝状遺構

第1号溝状遺構

C-6区より検出された。N-57°-Eに主軸を取り、長さは約5.5m・幅は概ね1mを測る。深度は10～20cmと一定していない。出土遺物は杯類を中心として平安後期の土器片が多量に検出されている。本調査で出土した遺物の大半はこの第1号溝状遺構より出土したことを付け加えておく。

第2号溝状遺構

E・F・G-4区より検出されたものである。主軸方向はN-20°-Eを取る。全長は約8m、幅は1.2～1.5mを測る。また、深度は約20cmである。形状は直線に伸びた後に北側端部を左に曲げる。南側では第4号住居跡に切られている。また、不規則に西側の壁付近に杭列がみられた。なお、当遺構からの遺物の出土は無い。

（3）土坑

土坑は2基検出された。

第1号土坑

当土坑はC・D-6区に跨がって検出された。規模は長軸約70cm・短軸約60cm・深度約10cmを測る。平

面形状は橢円形で坑底は平底で壁はやや急傾斜を持って立ち上がっている。出土遺物はⅦ期に比定される杯や高台杯が出土している。

第2号土坑

試掘調査時において検出されたもので、当区域の発掘調査実施の決め手となった土坑である。検出位置はF-4・5区に跨がっている。平面形は不整円形を呈しており、坑底は平坦で壁はやや角度を持って立ち上がっている。長軸は98cm・短軸は78cm、深度は34cmを測る。遺物の出土はない。

(4) ピット

ピットについてはすべてがぶどう棚の支線に係るものであるので割愛することとする。

第5章 調査の成果と課題

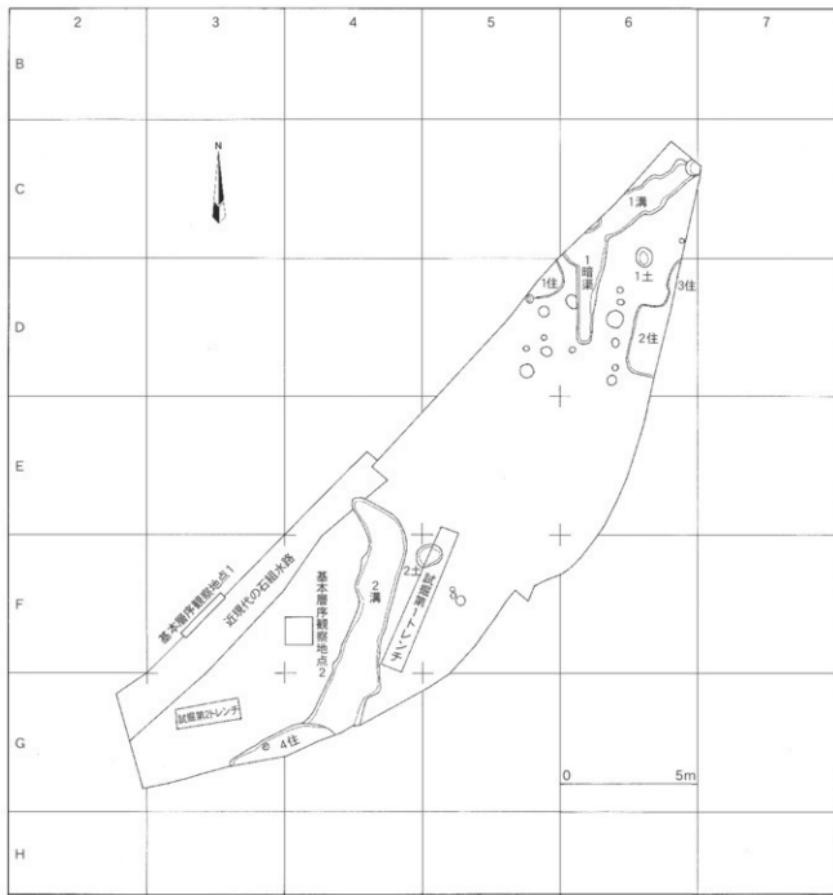
ここまで、今回の発掘調査の概要を示してきたが、約 200m²という狭い範囲の中での調査状況においても、豊富な遺物が出土した。その大半が小破片化しており、さらにその多くが平安時代の所産であった。

今回の調査における最古の出土品は古墳時代須恵器大甕と長頸瓶であろう。大甕は胴体の中幅辺りのものが 2 点と長頸瓶の頸部が 1 点である。遺跡地の背後に大藏経寺山や八人山が控え 150 基弱の古墳が群をなしていることは周知の事実である。さらに笛吹市春日居町地区には 41 基からなる春日居古墳群が確認されている。これらの古墳は概ね 7 世紀を主体として築造されているが、古くは 6 世紀にくい込むものも散見される。

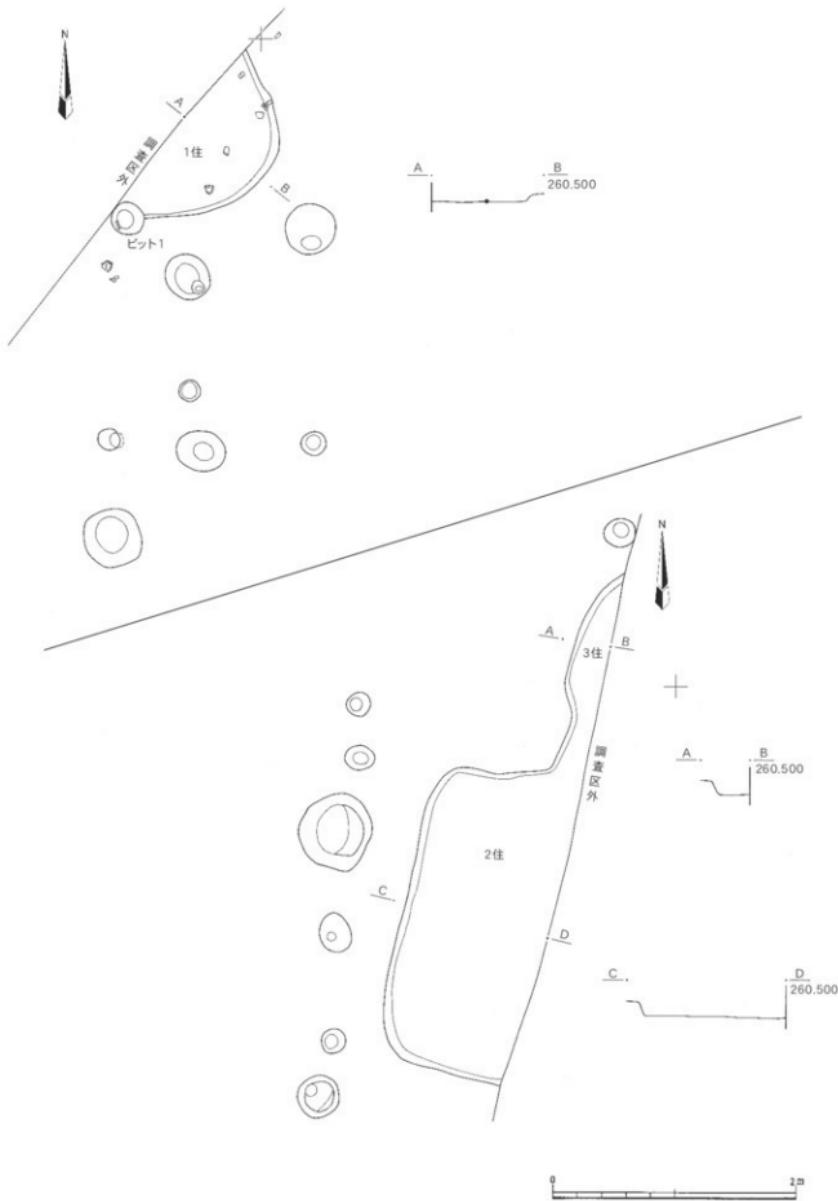
第 1 号溝状遺構と遺構外からは多くの甲斐型土器が多量に出土している。特に第 1 号溝状遺構からの出土資料はその状況から廃棄を明確に示すものと言えよう。本地点での調査では生産について確証できる遺構は検出されなかったが、近接する道々芽木遺跡や 1994 年などの大坪遺跡調査例にみられるような焼土を作った小規模な土師器焼成遺構を持っていた可能性が充分に考えられるものであろう。1994 年調査例では「数軒程度の小規模な工房と焼成窯が近接して存在していた」と想定されている。1975・1983・1994 年に加え、1999 年の道々芽木遺跡、2000 年の久保田・道々芽木遺跡の調査成果でも土器の廃棄された状況が確認されており、本遺跡から隣接する遺跡群一帯にかけて濃密な土器の生産がされ甲斐国内外に流通していたことから大坪遺跡を取り巻く一帯での生産規模は非常に大きかったと考えられよう。

引用参考文献

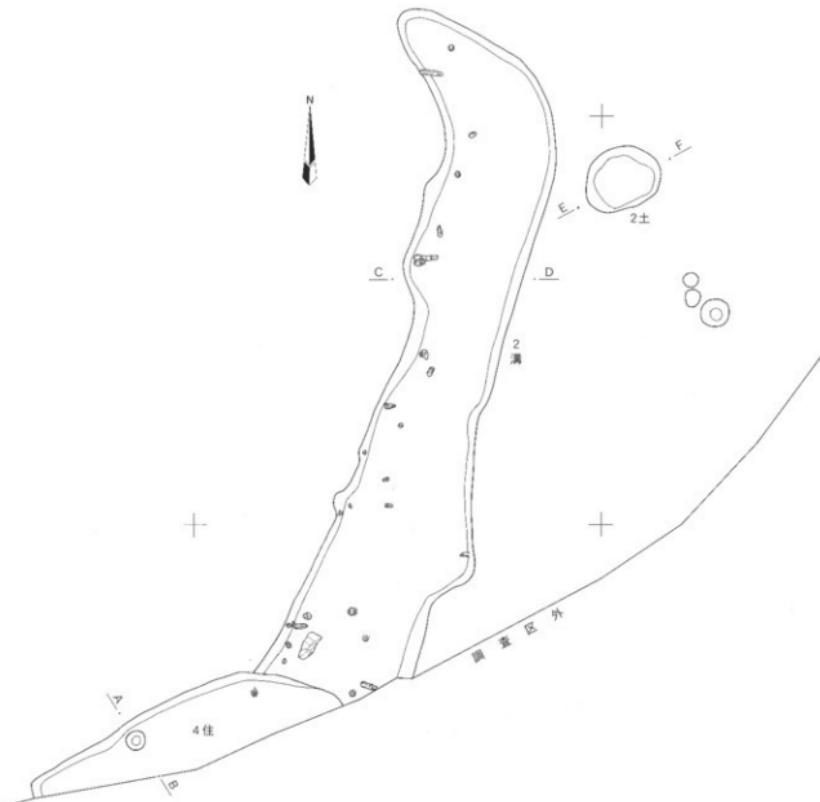
- 山梨県教育委員会 1976 『大坪』
- 神奈川県教育委員会 1983 「甲斐地域－シンポジウム奈良・平安時代の諸問題」『神奈川考古』第 14 号
- 甲府市教育委員会 1984 『大坪遺跡』
- 山梨県教育委員会 1988 上土器遺跡発掘調査報告『甲府市史研究』第 6 号
- 山梨県教育委員会 1989 山梨県埋蔵文化財センター報告第 50 集『桜井畠（B 地区）』
- 山梨県教育委員会 1990 山梨県埋蔵文化財センター報告第 54 集『桜井畠（A・C 地区）』
- 山梨県教育委員会 1991 『横根・桜井積石塚古墳群調査報告』
- 山梨県考古学協会 1992 『甲斐型土器－その編年と時代』
- 甲府市教育委員会 1996 『大坪遺跡発掘調査報告書』
- 山 梨 県 1999 『山梨県史』資料編 1
- 山 梨 県 2000 『山梨県史』資料編 2
- 山梨県教育委員会 2001 山梨県埋蔵文化財センター報告第 188 集『道々芽木遺跡』
- 山梨県教育委員会 2002 山梨県埋蔵文化財センター報告第 197 集『久保田・道々芽木遺跡』
- 甲府市教育委員会他 2008 『山梨学院川田運動場遺跡群（桜井畠遺跡・亀田遺跡・川田久保田遺跡）』



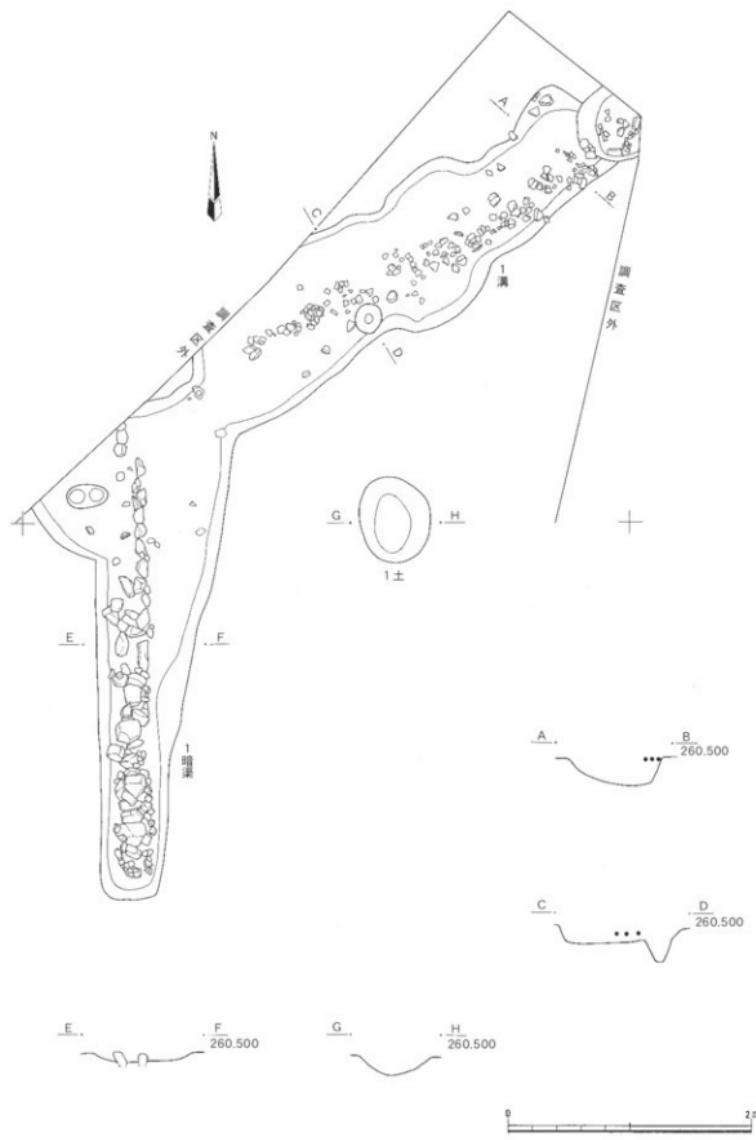
第1図 遺構全体図



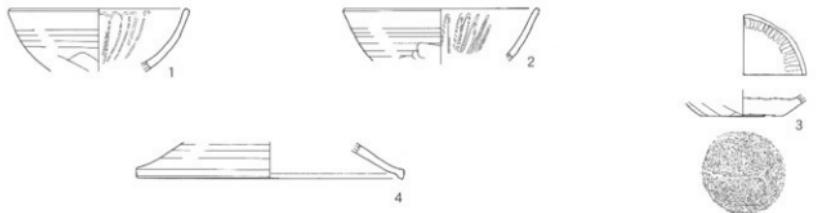
第2図 第1～第3号住居跡 平・断面図



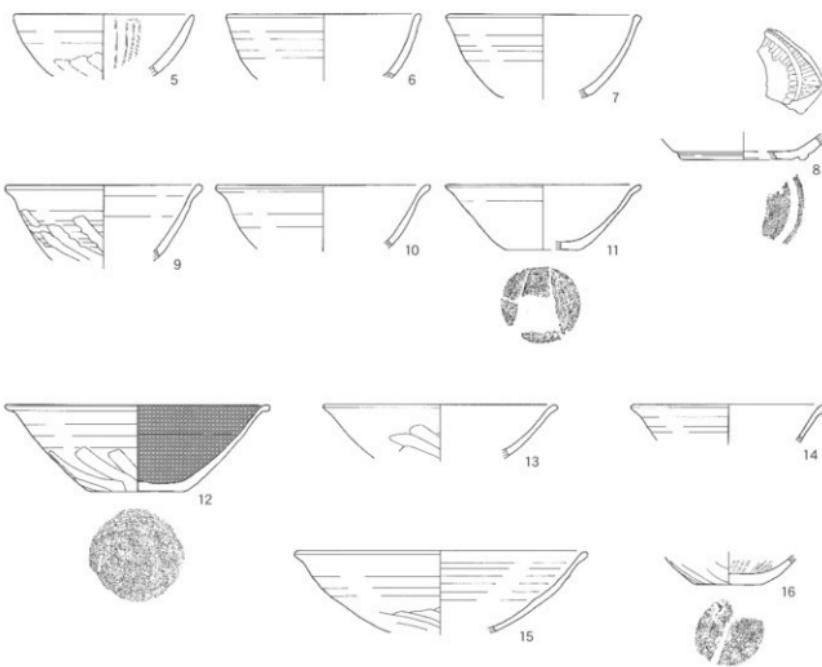
第3図 第4号住居跡・第2号溝状遺構・第2号土坑 平・断面図



第4図 第1号溝状道構・第1号暗渠・第1号土坑 平・断面図



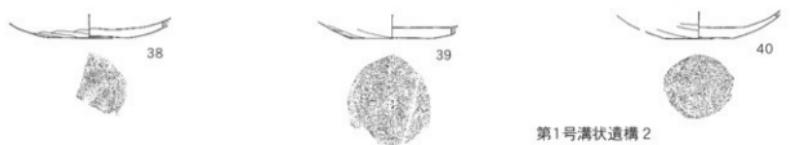
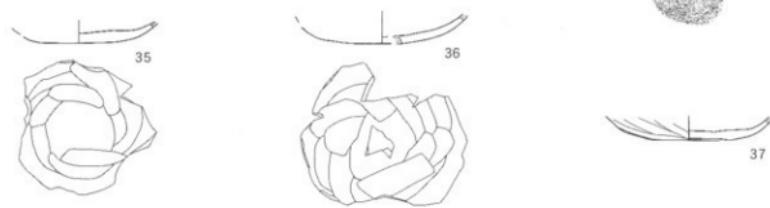
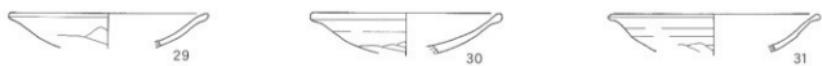
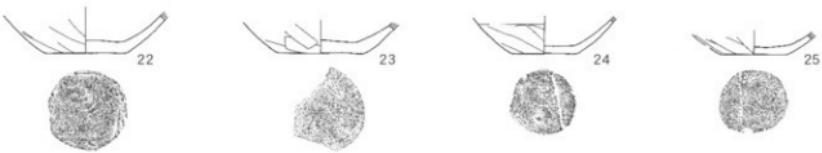
第1号住居跡



第1号溝状遺構 1



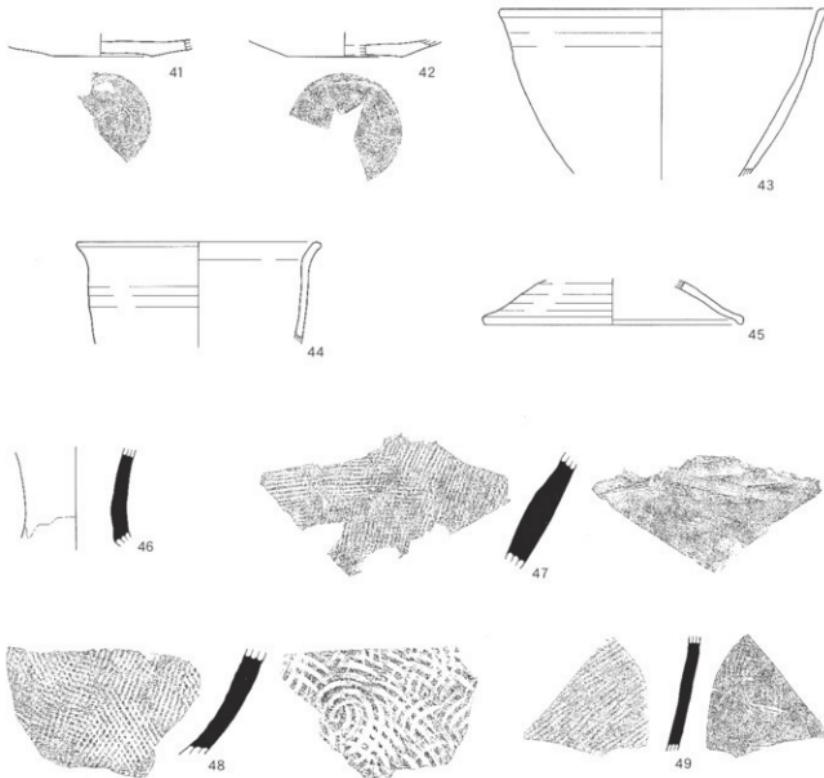
第5図 出土遺物 1



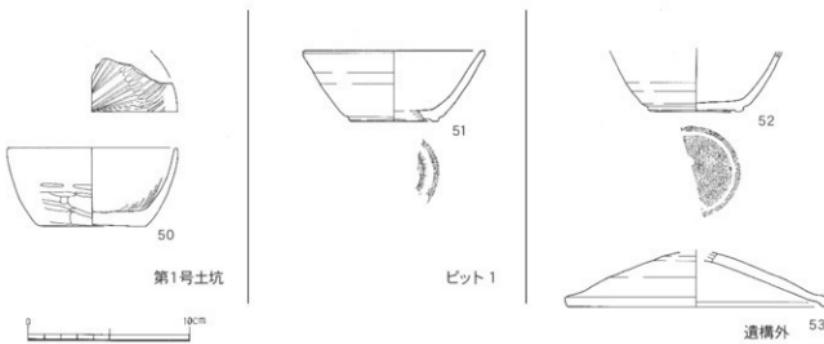
第1号溝状遺構 2



第6図 出土遺物 2



第1号溝状造構 3



第7図 出土遺物 3

第1表 出土遺物觀察表 (1)

辨別番号	遺物番号	出土地点	記番号	種別	器形	口径 (m)	法縫 (m)	底径	胎土	焼成	調査	時代	
5	1	1住	P-5	土陶器	壺	(10.9)	残3.8	—	粗	赤色胎子	良好	円錐形文 輪廻ヘラ削り	平安
5	2	1住	P-3	土陶器	壺	(11.8)	残3.2	—	粗	赤色胎子	良好	円錐形文 輪廻ヘラ削り	平安
5	3	1住	P-7	土陶器	壺	—	残1.0	5.0	黒褐色	赤色胎子	良好	円錐形文外面ヘラ削り 底部斜切り後ヘラ削り	平安
5	4	1住	P-2	土陶器	壺	—	残2.1	(16.1)	粗	赤色胎子	良好	円錐形文 底部斜切り後ヘラ削り	奈良8C
5	5	1溝	P-3	土陶器	壺	(10.8)	残3.8	—	粗	赤色胎子 金雲母	良好	円錐形文 輪廻ヘラ削り	平安
5	6	1溝	P-8	土陶器	壺	(11.7)	残4.0	—	粗	赤色胎子	良好	円錐形文 輪廻ヘラ削り	平安
5	7	1溝	P-38	土陶器	壺	(11.5)	残5.1	—	粗	赤色胎子 石英	良好	円錐形文 輪廻ヘラ削り	平安
5	8	1溝	P-24	土陶器	高台壺	—	残1.3	(7.4)	粗	赤色胎子	良好	円錐形文 輪廻出し高台	平安
5	9	1溝	P-33	土陶器	壺	(11.6)	残4.6	—	粗	赤色胎子 白色胎子	良好	円錐形文 輪廻ヘラ削り	平安
5	10	1溝	P-32	土陶器	壺	(12.9)	残3.9	—	粗	赤色胎子	良好	底部斜切り痕	平安
5	11	1溝	P-33 P-35 P-38 -15	土陶器	壺	(11.7)	4.0	4.6	黒褐色	赤色胎子	良好	底部斜切り痕	平安
5	12	1溝	P-43	土陶器	内凹不 規則	(16.0)	5.3	5.9	粗	赤色胎子 白色胎子	良好	底部斜切り痕	平安
5	13	1溝	P-23	土陶器	壺	(14.2)	残3.3	—	粗	赤色胎子	良好	底部斜切り痕	平安
5	14	1溝	P-38	土陶器	壺	(11.7)	残2.3	—	粗	赤色胎子 白色胎子	良好	底部斜切り痕	平安
5	15	1溝	P-43	土陶器	片?壺?	(17.8)	残3.0	—	粗	赤色胎子 白色胎子	良好	底部斜切り痕	平安
5	16	1溝	P-35 P-38 -15	土陶器	壺	—	残1.6	4.2	粗	赤色胎子 白色胎子	良好	円錐形文外面ヘラ削り 底部斜切り後ヘラ削り	平安
5	17	1溝	P-35	土陶器	壺	—	残1.1	4.9	粗	赤色胎子 白色胎子	良好	円錐形文 輪廻ヘラ削り	平安
5	18	1溝	P-9	土陶器	壺	—	残1.9	4.1	粗	赤色胎子 白色胎子	良好	底部斜切り痕	平安
5	19	1溝	P-9	土陶器	壺	—	残4.0	3.7	粗	赤色胎子 白色胎子	良好	底部斜切り後ヘラ削り 輪廻ヘラ削り	平安

第1表 出土遺物觀察表 (2)

辨別番号	遺物番号	出土地点	注記番号	種別	器形	口径	法 庫 (cm)	色 調	胎 土	燒 成	調 整	時代	
5	20	1溝	P-32	土鍋群	坪	—	残2.2	4.8	淡黃褐	赤色粘子 白色粘子	良好	外面部へ少割り 底部糸切り痕	平安
5	21	1溝	P-34	土鍋群	坪	—	残2.0	4.5	橙	赤色粘子	良好	外面部へ少割り 底部糸切り痕	平安
6	22	1溝	P-30	土鍋群	坪	—	残2.3	5.0	淡黃褐	赤色粘子 白色粘子	良好	外面部へ少割り 底部糸切り痕へ少割れ	平安
6	23	1溝	P-14	土鍋群	坪	—	残1.8	(5.5)	橙	赤色粘子 白色粘子 黑色粘子	良好	外面部へ少割り 底部糸切り痕	平安
6	24	1溝	P-21	土鍋群	坪	—	残2.2	4.0	橙	赤色粘子	良好	外面部へ少割り 底部糸切り痕あり	平安
6	25	1溝	P-38	土鍋群	坪	—	残1.2	4.0	橙	赤色粘子 白色粘子 黑色粘子	良好	外面部へ少割り 底部糸切り痕へ少割れ	平安
6	26	1溝	P-11	土鍋群	皿	(12.0)	残2.4	—	橙	赤色粘子 白色粘子	良好	—	平安
6	27	1溝	P-31	土鍋群	皿	(11.4)	残2.1	—	橙	赤色粘子 白色粘子	良好	外面部へ少割り	平安
6	28	1溝	P-40	土鍋群	皿	(13.4)	残1.9	—	橙	赤色粘子	良好	外面部へ少割り	平安
6	29	1溝	P-21	土鍋群	皿	(12.0)	残2.1	—	橙	赤色粘子 白色粘子	良好	外面部へ少割り	平安
6	30	1溝	P-35	土鍋群	皿	(11.5)	残2.5	—	淡黃褐	赤色粘子 白色粘子 石英	良好	外面部へ少割り	平安
6	31	1溝	P-24	土鍋群	皿	(12.5)	残2.3	—	橙	赤色粘子	良好	外面部へ少割り	平安
6	32	1溝	P-29	土鍋群	皿	—	残0.7	(6.3)	褐色	赤色粘子 白色粘子 黑色粘子	良好	内面部文	平安
6	33	1溝	P-39	土鍋群	皿	—	残0.9	5.0	橙	赤色粘子 白色粘子	良好	外面部へ少割り	平安
6	34	1溝	P-35	土鍋群	皿	—	残1.0	4.3	橙	赤色粘子 白色粘子 黑色粘子	良好	内面部文 外面部へ少割り 底部糸切り痕へ少割れ	平安
6	35	1溝	P-30	土鍋群	皿	—	残1.2	4.0	橙	赤色粘子	良好	底部へ少割り	平安

第1表 出土遺物觀察表 (3)

辨別番号	遺物番号	出土地点	注記番号	種別	器形	口径	法縫 (cm)	色調	胎土	焼成	調査	時代
6	36	1溝	P-30	土陶器	壺	—	残1.7	3.4	橙	赤色胎子 黒色胎子	良好	尾張～外面ヘラ削り
6	37	1溝	P-33	土陶器	壺	—	残1.3	(5.0)	楕	赤色胎子	良好	尾面ヘラ削り
6	38	1溝	P-37	土陶器	壺	—	残0.8	(4.6)	浅黄	赤色胎子 白色胎子	良好	外面ヘラ削り
6	39	1溝	P-38	土陶器	壺	—	残1.0	5.1	楕	赤色胎子 白色胎子	良好	外面ヘラ削り
6	40	1溝	P-30	土陶器	壺	—	残1.5	4.2	楕	赤色胎子 白色胎子	良好	尾張燒窯
7	41	1溝	P-6	土陶器	壺	—	残0.5	(6.2)	楕	赤色胎子 白色胎子	良好	尾張燒窯
7	42	1溝	P-1	土陶器	壺	—	残0.9	(7.0)	楕	赤色胎子	良好	尾張燒窯
7	43	1溝	P-19	土陶器	杯?	(19.7)	残10.1	—	浅黄	赤色胎子 白色胎子	良好	平安
7	44	1溝	P-21	土陶器	小壺	(14.7)	残6.2	—	浅黄	赤色胎子	良好	平安
7	45	1溝	P-10	土陶器	壺	—	残2.7	(15.7)	楕	赤色胎子 白色胎子	良好	平安
7	46	1溝	P-42	須彌壺	須彌壺	—	残5.3	—	灰白	黑色胎子	良好	平安
7	47	1溝	P-16	須彌壺	壺	—	—	—	灰白	黑色胎子	良好	尾張燒窯
7	48	1溝	P-41	須彌壺	壺	—	—	—	灰白	黑色胎子	良好	尾張燒窯
7	49	1溝	P-20	須彌壺	壺	—	—	褐色	白色胎子	良好	尾張燒窯	
7	50	1土	-16	土陶器	壺	(10.2)	4.8	(6.6)	楕	赤色胎子 白色胎子	良好	尾張燒窯
7	51	1HT	P-1	土陶器	高台壺	(11.1)	4.4	(5.3)	楕	赤色胎子 白色胎子	良好	尾張燒窯
7	52	遺跡8	P-2	土陶器	高台壺	—	残3.7	(5.5)	楕	赤色胎子 白色胎子	良好	尾張燒窯
7	53	遺跡8	—	土陶器	壺	—	残3.3	(15.6)	楕	赤色胎子 白色胎子	良好	尾張燒窯

写 真 図 版



調査前の状況



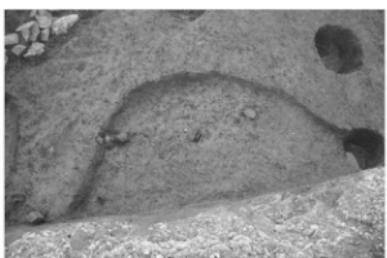
表土剥ぎの状況



調査風景



基準杭の設置風景



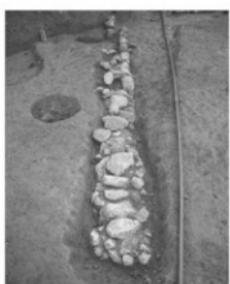
第1号住居跡検出状況



第1号溝状遺構遺物出土状況



第2・3号住居跡検出状況



暗渠検出状況

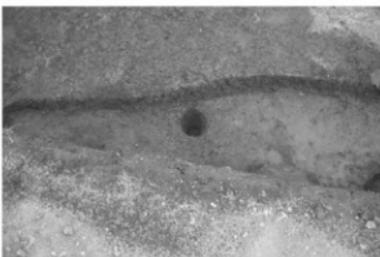


近現代の石組み溝出土状況

写真図版 4



第 2 号溝状遺構調査風景



第 4 号住居跡検出状況



埋め戻しの様子



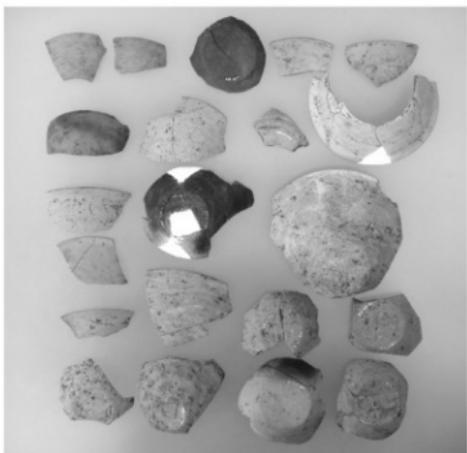
埋め戻し後の状況



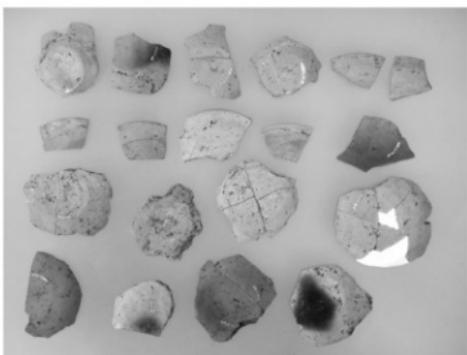
北東側区画完掘状況



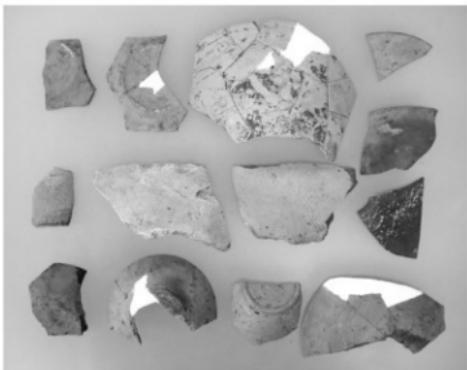
西側区画完掘状況



出土遺物 1～21



出土遺物 22～40



出土遺物 41～53

報告書抄録

ふりがな	おおつぼいせき						
書名	大坪遺跡						
副題	国道140号緊急道路整備改築事業に伴う発掘調査						
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号	第300集						
著者名	浅川一郎・吉岡弘樹						
発行者	山梨県教育委員会・山梨県土整備部						
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター						
所在地・電話	〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923 TEL 055-266-3016						
発行年月日	2015年3月20日						
印刷所	株式会社 峡南堂印刷所						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 (新)	東経 (新)	調査期間	調査面積 m ²
		市町村	遺跡番号	35° 39° 57°	138° 34° 05°	2014年 7月7日 ~ 8月8日	200m ²
おおつぼいせき 大坪遺跡	やまなしけんこうふし さくらいちょう 山梨県甲府市桜井町634-3	19201	岡-11				国道140号緊急道路整備改築事業
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項	
	集落	平安	住居跡 溝状遺構	土師器		第1号溝状遺構と遺構外からは多くの甲斐型土器が多い量に出土している。特に第1号溝状遺構よりの出土資料はその状況から発表を明確に示すものと言えよう。	

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第300集

大坪遺跡

国道140号緊急道路整備改築事業に伴う発掘調査

印刷日 2015(平成27年)年3月13日

発行日 2015(平成27年)年3月20日

編集 山梨県埋蔵文化財センター

〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923

TEL 055-266-3016 FAX 055-266-3882

発行 山梨県教育委員会

山梨県土整備部

印刷 株式会社 峡南堂印刷所